

親愛なる参加者と主催者のみなさん

残念ながら私はこの興味深い会に参加して、みなさんとご一緒することはできません。そこで、特に主催者からの親切な招待に対して、参加者の皆さまに歓迎のメッセージを通して、いくつかの考えを共有し、この会を実りあるものにしてもらいたいと考えています。

皆さまがご存知のように、情報の哲学は、より強靱なものとなってきています。それが何なのか、さらになぜそれが重要なのかを説明しなければならない時代は終わりを告げました。今日ではもう、情報の哲学が明白であるものとして、研究や学びを行い、またそれらに関心を持つような学生を多く目にします。

彼らは、正しいです。多くのプロジェクトやセンター、そして関係の人々が、情報の哲学に関する新たなアイデアを導き出しており、それらはどんどん増えて来ています。そのことは驚くことではありません。情報の哲学は、既に一般的なテーマとなっています。そのことには元気づけられます。つまりそこには、希望が存在しているわけですから。

私たちの周りには、偽のニュース、狂った政治家と無責任な扇動家、未来への誤った情報、技術的なSFのシナリオへのデマの警告、様々な種類の、無知、反啓蒙主義、ポピュリズム、孤立主義、保護貿易主義と反動に囲まれています。そして、不平等、狭量と反グローバルイズムは、反コスモポリタニズムへと変わって行きます。

西側社会の4つの柱—平和、寛容、自由、そして正義は、古いファシズムと宗教的な原理主義の新たな生まれ変わり（化身）により、常に挑まれております。第二次世界大戦の後の、広範囲にわたる新しい教育、生活水準の向上、より平和な共存、より安全で健康な長寿など、より民主的なシステムの多くの新しい「始まり」が、私たちの哲学的文化を満足させ、解放しました。

二十世紀の終わりには、いくつかの国の独裁や、共産主義、アパルトヘイト、冷戦など、多くの「終わり」が、私たちの知的なガードを低下させました。私たちは、啓蒙主義の使命が達成された、あるいはすぐ達成されるだろうと考えていました。しかし、私たちは間違っていた。私たちは現在、世界で最も自由で民主的と言われた片隅であっても、打ちのめされています。私たちは再び立ち上げり、私たちの最悪の流れと誘惑のヒュドラ(※)に対して、ヘラクレスの戦いを再開しなければなりません。

※ギリシア神話での、Hercules に殺された九つの頭を持ったヘビのこと、転じて根絶しにくい害悪

私たちは明らかに、こうした状況を救うために、大量の良い哲学を必要としています。そして、今まさにそれが必要なのです。しかし、情報の哲学無くして、今の哲学はどうなのでしょう。情報社会は、計画もなく、急造されてきています。そして、アイデア、プロジェクト、価値観に関する、巨額な赤字を抱えています。私たちは、最初に物事を考えずに行動をし、その後ですら考えません。「すぐ失敗し、頻繁に失敗する」という、戦略や社会のありかたとなってしまうています。そのコストたるや、膨大なものです。

こうした現在の、いらいらさせるような病を、健全な発達のための痛みに変えるためには、様々な問題について、明白であり、革新的で、大胆な考えが必要です。現在の挑戦の本質を把握し、博識な、説得力がある解決を提案することが求められる概念設計を提供するために、私たちには最高の状態の哲学が必要なのです。

その例は、多くあります。私たちは、知識と礼儀正しさ、そして情報に基づいた、対話の文化を復活させる必要があります。例えば、どのような国家をも超えた世界的な挑戦に対処するために、成熟した情報社会では、どのようなウェストフィリアシステムを改善することができるかについて、我々は理解しなければなりません。インフォスフィア（情報圏）の中で、プライバシー、セキュリティと言論の自由を、私たちが互いに同等に保持するために、私たちは、人間の権利のありかた（アーキテクチャ）も、再び顧みなければなりません。私たちは、人工エージェンシーの新しい姿に光を当て、人間性と尊厳について、考えを更新しなければなりません。とりわけ私たちは、どういった人間のプロジェクトを進めたいかを、慎重に、そして率先して考える必要があります。私は、今日参加してくださった皆さんが、これらの例のリストを、容易に拡大することができるものと確信しています。

人々は、すべてのものごとが、計画したり、管理するには、あまりにも速く動いていると、しばしば不平を言います。しかし、本当の問題は、歴史の変化のペースではなく、それらの方向なのです。より速く未来へ移動するならば、私たちは、どこに向かっているかを、非常に巧みに制御する必要があります。私たちは、過去の世代（その努力と苦しみが、我々を今ここに連れてきました）と、そして、将来の世代（私たちが楽しみ、そして消費してはならない驚くべき機会について、私たちを評価するであろう）の、巨大な知的な努力に、多くを負っています。

私たちは今、私たちの情報社会、文化と施設を建設し、正しい方を向くための時だということを知っています。未来の世代は、私たちが今日形づくっている、インフォスフィアの中で生きて行きます。そこには、2度目のチャンスは存在しません。それはエキサイティングなことですが、無駄にする時間はありません。そして、私たちには無用な理屈にふけることはできないのです。

すぐにスコラ哲学を止めてください、そのような身勝手はもはや面白くもないし、無責任であり、そして世界には、そんな余裕はありません。この世界を形づくるすべての情報の問題と、私たちがそれを理解することと、そしてそれに対してと、私たちの間でのやり取りに関して、私たちの情報の哲学は、基礎とならなければなりません。そして、それらに適用されないとしても、それは適用できる可能性がなければなりません。

応用哲学、経験的な哲学は、しばしば悪い科学、悪い哲学、あるいはその両方となりがちです。医学における基礎研究のように、良い哲学は、現実の世界の適用可能な解決に対して、現実的であり、具体的であり、対応可能なものです。それは、単なるアカデミックな活動というだけではありません。

このイベントが、世界とかみ合う、情報哲学の良い機会であることを、私は切望します。皆さんの対話の成功を祈ります。そして、私たちの次の対話の機会を、楽しみにしています。

Luciano Floridi

※フロディティ氏からの、このイベントへのメッセージを、ざっと訳してみました。細かい校閲はしていませんので、ご参考までに。

監訳者代表 春木